

「市」の人口の十倍以上の「村」がある

全国には千七百七十五の市町村がある（二〇〇九年六月末時点）。一八八九（明治二十二年）に市制町村制が施行されて以来、「市」の数は着実に増加し、「村」は減少の一途をたどってきた。市が一つ増加することに、いくつもの村が姿を消していった。一九三〇（昭和五年）の時点でも市の数は百九しかなかったが、村はその約百倍の一万二百九十二もあった。現在は七百八十三の市に対し、村はその四分の一の百九十一に過ぎない。

これまで、町や村は市になることを目標にしてきた。それだけ「市」にはブランド力があったし、市と町村との間には、都市機能などに歴然とした差があったのである。ちなみに、地方自治法第八条には、市になる要件として次のような規定がある。

一 人口五万人以上を有すること。
二 当該普通地方公共団体の中心の市街地を形

成している区域内に在る戸数が、全戸数の六割以上であること。

三 商工業その他の都市的業態に従事する者及びその者と同一世帯に属する者の数が、全人口の六割以上であること。

四 前各号に定めるものの外、当該都道府県の条例で定める都市的施設その他の都市としての要件を具えていること。

このように、市に昇格することは容易なことではなかった。

ところが平成の大合併では、合併特例法の名の下に市になる要件が大幅に緩和され、期限内に合併することを条件に人口が三万人以上であれば、ほかの要件を備えていなくても市になれるという優遇策を打ち出した。その結果、都市としての機能を備えていない、どうみても町や村とは思えない市が増産されることになった。また、近年は大都市圏への人口集中により地方の過疎化が進み、もはや市としての要件を満たしていない名ばかりの市が各地で生まれている。

ちなみに、日本一人口が少ない市は北海道の歌志内市で、わずか四千七百七十七人（二〇〇九年六月末）。小さな「町」よりも、更に小さな市である。歌志内市は旧炭鉱都市で、石炭産業が

華やかしころは現在の約十倍の人口を有していたが、炭鉱の閉山で減少の一途をたどった。一方、日本一人口の多い村は、盛岡市に隣接する滝沢村の五万三千八百七十四人。村でありながら、歌志内市の十一倍以上の人口を有している。滝沢村は盛岡市近郊の純農村だったが、盛岡市の発展に伴いベッドタウン化が進み、人口が急増したのである。五万人以上の人口を有しているもの、ほかの要件を具備していないため、単独では市に昇格することができないのである。

市になるためのハードルは高くても、いったん市に昇格すれば人口がどれだけ減少しようが町や村に格下げになることがないため、村より人口の少ない市が存在するというような珍現象が生まれている。全国には滝沢村より人口の少ない市が二百七十八もある。全体の三分の一以上の市が、滝沢村より人口が少ないのである。市と町と村は、単なる名称の違いだけになってしまったのか。明治の市制町村制の施行以来、今日まで続いてきた「市」「町」「村」の区分は、今後も守り続けていくだけの意義があるものなのだろうか。いつそのこと、基礎自治体の市町村をすべて「市」という名称に統一してもいいのではないかとさえ思えてくる。

滝沢村（岩手）より人口の少ない市の数

都道府県名	市の数	滝沢村より人口の少ない市の数
北海道	35	19
青森	10	4
岩手	13	7
宮城	13	4
秋田	13	6
山形	13	8
福島	13	3
茨城	32	14
栃木	14	3
群馬	12	1
埼玉	40	1
千葉	36	9
東京	26	0
神奈川	19	2
新潟	20	8
富山	10	5
石川	10	5
福井	9	4
山梨	13	8
長野	19	8
岐阜	21	10
静岡	23	9
愛知	35	5
三重	14	5
滋賀	13	2
京都	15	3
大阪	33	0
兵庫	29	13
奈良	12	4
和歌山	9	4
鳥取	4	2
島根	8	4
岡山	15	8
広島	14	6
山口	13	3
徳島	8	5
香川	8	2
愛媛	11	5
高知	11	10
福岡	28	10
佐賀	10	6
長崎	13	8
熊本	14	7
大分	14	8
宮崎	9	4
鹿児島	18	13
沖縄	11	3
合計	783	278

(2009年6月末時点)